



At the heart of the image

Information

ニコンイメージングジャパン、「こどもの教育に関する意識調査」を発表
こどもの育て方について「感性」を重視する母親は73.5%
こどもの感性を伸ばしたい三大理由、
「表現力が豊かになる」・「好奇心旺盛になる」・「芸術性が身に付く」

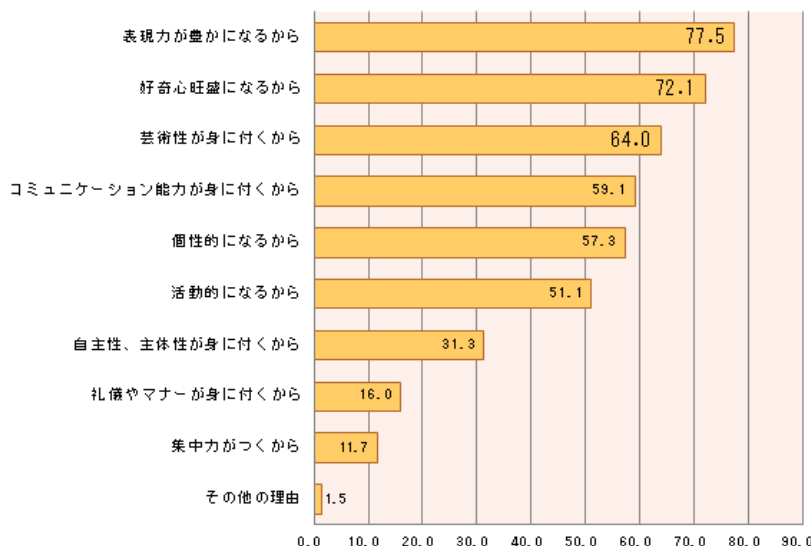
2016年11月16日

株式会社ニコンイメージングジャパン（社長：五代 厚司、東京都港区）は、「カメラでココロ育む 写真教育プロジェクト」として、20歳から49歳までの母親618名を対象に「こども教育に関する意識調査」を実施しましたのでご報告いたします。

【調査サマリー】

- こどもの育て方について「感性」を重視する母親は73.5%
- こどもの感性を伸ばしたい三大理由は、「表現力が豊かになるから」・「好奇心旺盛になるから」・「芸術性が身に付くから」
- 母親が最も伸ばしたいこどもの五感、1位は”視覚”、75.2%の母親が回答
- 約7割の母親が、こどもの感性を育む方法に悩み

感性を重視する理由をお選びください
※複数回答(n=614)



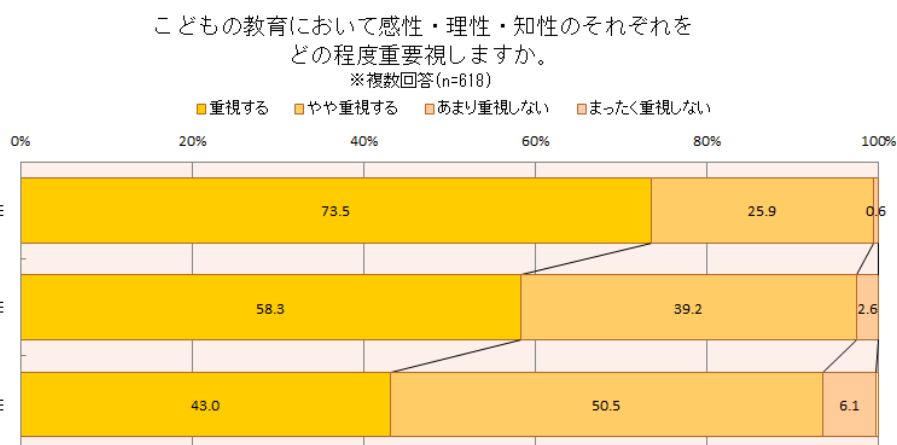
【調査概要】

1. 調査の方法：株式会社マクロミルのインターネットリサーチシステムを利用したWEBアンケート方式で実施
2. 調査の対象：マクロミル登録モニターのうち、20～49歳の女性
3. 有効回答数：618人（年代均等割付）
4. 調査実施日：2016年10月21日（金）～10月25日（火）

【調査内容】

●こどもの育て方について「感性」を重視する母親は73.5%

20歳から49歳までの母親618名を対象に、「こどもの教育において感性・理性・知性をそれぞれの程度重視しますか」という質問をしたところ、「感性」を「重視する」と母親の73.5%が回答し、「知性」や「理性」を上回る結果になりました。

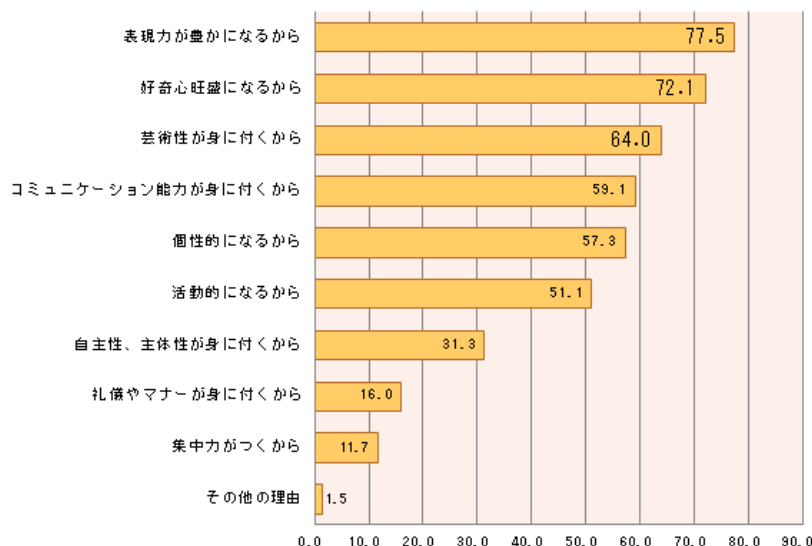


●こどもの感性を伸ばしたい三大理由は

「表現力が豊かになるから」・「好奇心旺盛になるから」・「芸術性が身に付くから」

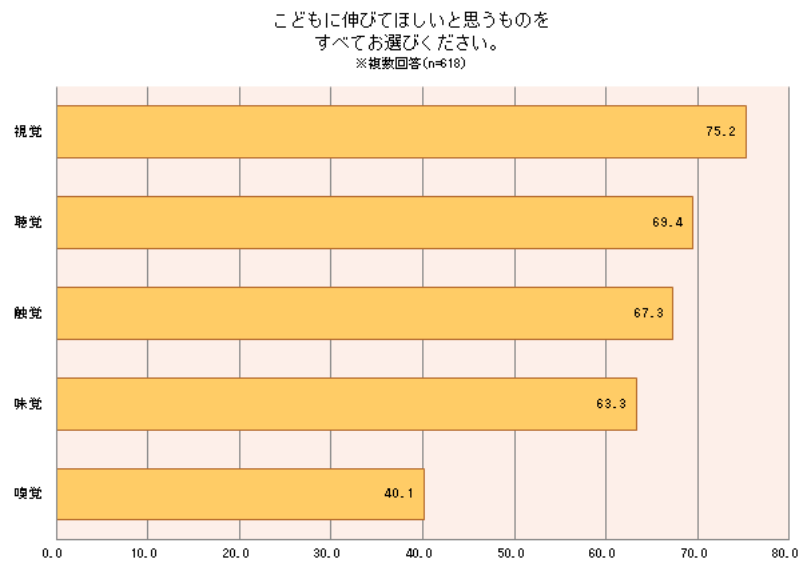
また、「こどもの感性を育むことが、重要である・やや重要である」と回答した母親614名に、感性を育みたい理由を伺ったところ、「表現力が豊かになるから」という回答が77.5%、「好奇心旺盛になるから」という回答が72.1%、「芸術性が身に付くから」という回答が64.0%という結果になりました。

感性を重視する理由をお選びください
※複数回答(n=614)



●母親が最も伸ばしたいこどもの五感、1位は”視覚”、75.2%の母親が回答

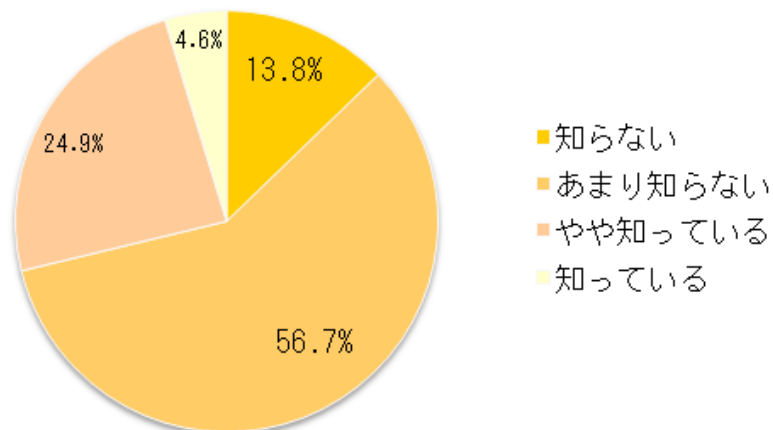
20歳から49歳までの母親618名を対象に、「五感のうちこどもに伸びてほしいと思うものをお選びください」という質問に対して、1位「視覚(75.2%)」、2位「聴覚(69.4%)」、3位「触覚(67.3%)」、4位「味覚(63.3%)」、5位「臭覚(40.1%)」という結果になりました。



●約7割の母親が、こどもの感性を育む方法に悩み

「こどもの感性を育むことが、重要である・やや重要である」と回答した母親614名に対して、「感性がどのようにすれば伸びるのか知っていますか」という質問をしたところ、約7割の方々が「知らない(13.8%)」、「あまり知らない(56.7%)」と回答する結果となりました。

感性がどのようにすれば伸びるのか知っていますか。
※感性を育てる教育が「重要」「やや重要」と回答した母親に質問(n=614)



【参考】

～幼児教育と感性の育み方について～

監修：教育コンサルティング・株式会社子育て研究所代表 佐藤理香先生より

「感性」は幼児教育の課題

「感性を育てる」ということは、ものの感じ方を育てることです。感性そのものに正解や間違いはありません。今回の調査結果で明らかになったように、9割以上の母親が感性を育む教育が重要であると考えています。一方で、その大半が子どもの感性の伸ばし方を知らないという現実がみられました。

これは、感性が可視化できないために、教育方法が難しく、成長実感を得にくいことと関連しています。幼児教育の分野では、感性の重要性が指摘されるものの、伸ばし方は課題のひとつになっています。

感性を表現するのは難しい

幼児は言語の力（話し言葉、書き言葉）がまだ乏しく、感じたことを絵や創作物で表現できるほど巧緻性（器用さ）が発達していません。そのため、子どもが瞬発的に感じたこと、直感で感じたことを表現するのは難しいといえます。

カメラは感性教育の有効な手段

子どもがカメラを持ち写真を撮ることは、感性の教育としては大変有効な手段です。カメラで撮影することを通して、発見や感動を写真として記録できます。カメラを近づけたり離したりと好きなように操って撮影することで、新たな発見を促すことができます。カメラは、子どもが五感で感じた好奇心や感動を表出させる一つの手だてなのです。

保護者としても、子どもがみている、感じている視点を写真として確認できます。被写体や撮影方法を保護者がアドバイスすることで、子どもは新たな視点で被写体を捉えることができるようになり、感性の成長に繋がります。何よりも、カメラを通じた人とのコミュニケーションが、子どもの社会性を育み、感性の成長を後押しします。

●プロフィール

佐藤理香 / 教育コンサルティング・株式会社子育て研究所代表
教育業界で長年勤務し幼児教育から高等教育まで幅広く知見を深める。2016年、株式会社子育て研究所の代表取締役に就任。

「子どもを地域で育てることが普通の社会に」を目標に、学びを通じて地域のつながりを生み出し、幸せと安心を感じることができる社会を創造したいと奮闘中。各種ビジネスコンテストで優秀賞や大賞の受賞歴がある。複数のメディアで専門家としてコラムも連載中。



●「カメラでココロ育む 写真教育プロジェクト」とは

当プロジェクトでは良いカメラで写真を撮り、思い出を残すという行為を通じて、こども達の表現力やコミュニケーション力を育むことを目的とした、こどもの才能を伸ばす写真教育の取り組みです。

被写体の構図を考え、光量によって変化する色合いの違いを感じることで、カメラが人の感性を磨くことに着目し、今後、多くのこども達に対して、カメラで写真を撮る楽しさを提案し、表現力やコミュニケーション力の育成を目指していきます。

この件に関する問い合わせ先

●報道関係の問い合わせ先

株式会社ニコンイメージングジャパン 広報宣伝部 馬橋・加々美
108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティ C棟 03-6718-3016
株式会社ニコンイメージングジャパン PR事務局
ビルコム株式会社 担当：武谷（たけや）・河野（こうの）
TEL：03-5413-2411/FAX：03-5413-2412/Mail：nikon-press@bil.jp

●お客様の問い合わせ先

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル 0570-02-8000
